

日照不足等に伴う農作物の技術対策

平成18年6月20日

福島県農林水産部

5月は、低気圧や前線の影響により、中通りと浜通りを中心に曇りの日が多く、福島と小名浜の日照時間はそれぞれ平年比66、69%とかなり少なく、また、平年に比べ最高気温も低く経過しているため、一部の農作物に生育の遅れが見られます。

6月9日には、仙台管区気象台より「東北南部の梅雨入り」に関する発表がありました。

また、6月16日発表の「東北地方1か月予報」によると、今後も、太平洋側では平年に比べ曇りや雨の日が多く、日照時間が少なくなる見込みですので、農作物の管理には十分注意しましょう。

【野菜】

(現在の生育状況)

中通りと浜通りを中心に、全体的に3～7日程度生育が遅れ、草勢も弱く、葉色もやや淡くなっています。キュウリやトマトでは、一部病害が発生しています。

(今後の技術対策)

1 ハウスの栽培管理

- (1) 梅雨期であっても土壌水分が不足すると草勢低下を招くので、天候の変化により土壌水分が急変しないように、量や回数に注意したかん水を行いましょう。
- (2) 日照不足時の追肥は1回当たりの窒素分量を少なくし、窒素過多にならないようにしまししょう。
- (3) 換気を良好にし適正な温湿度管理に努めます。加温機がある施設では、曇雨天時に送風運転を行い、葉の濡れを防ぐようにしまししょう。

2 露地の管理

降雨が続く場合、停滞水とならないよう明きよを掘るなどして排水対策の徹底を図りましよう。

3 病害対策

曇雨天・日照不足等の下では軟弱徒長の生育となり病気が発生しやすいので、気象の推移と生育状況をみながら適正な防除に努めましよう。

4 主な品目の技術対策

キュウリ

半促成無加温：過繁茂にならないよう、老化葉を中心に葉かきを行い、整枝誘引を適正に行い、日当たり、通風を良くしましょう。また、過度の追肥は控えるとともに、不良果は摘果し草勢維持を図りましょう。

降雨が続く場合、べと病、灰色かび病、褐斑病等の発生が多くなるので防除を徹底しましょう。

露地：べと病、つる枯れ病、黒星病等の発生が多くなるので防除に努めましょう。

トマト：過度の追肥を控え過繁茂を防ぐとともに草勢維持に努めましょう。また、灰色かび病が発生しやすいので、換気を図るとともに、薬剤散布や花かす(花弁)除去により防除しましょう。

ミニトマト：斑点病等の病害が発生しやすいので、換気を図り防除を徹底しましょう。

インゲン：排水対策を徹底するとともに、炭そ病等の発生に注意しましょう。

ピーマン：疫病等の発生に注意しましょう。

ナス：地温確保のため通路の敷きわらは、薄く敷きましょう。

【果 樹】

(現在の生育状況)

- 1 開花期はモモでは平年より6日程度、リンゴ、ナシでは平年より1~3日程度遅れたため、果実肥大は6月1日の暦日比較ではやや小さい状況となっておりますが、満開後日数による比較では平年並~やや大きい状況です。
- 2 ナシやリンゴでは、開花期間の天候等の影響により、一部の地域で実止まりにバラツキや結実不良の園地が見られますが果実の必要量は概ね確保されています。

(今後の技術対策)

1 新梢管理

日照不足等が続くと新梢の充実が心配されます。

早期摘果を行うとともに、樹冠内部の枝は早めに夏季せん定を実施し、日当たりの確保に努めましょう。

2 園地管理

水はけの悪い園地では明きょにより排水対策を講じるとともに、適正な肥培管理を行いましょう。

3 病虫害対策

- (1) 病虫害の種類により、日照不足等の影響で発生時期の遅れ等が想定されますので発生に注意しましょう。
- (2) ウメやスモモなどに灰星病が多く発生すると隣接するモモやオウトウへの伝染源となるので被害果は早期に摘除しましょう。
- (3) モモでは収穫35~40日前頃からホモブシス腐敗病の重点防除時期となりますので適期防除に努めましょう。

4 オウトウの適期収穫

果実の裂果や着色不良、うるみ果(果実の軟化)の発生などが想定されますので適期収穫に努めましょう。

【花 き】

(現在の生育状況)

4月の低温の影響で生育開花にやや遅れが見られます。梅雨に入りこのまま日照が少ない状況が続けば、生育開花の不揃い、発色の低下、病害の発生などが想定されます。

(今後の技術対策)

- 1 ほ場や施設周りの排水対策を実施し、被覆資材は透光性の良い物を用いてください。
- 2 密植を避け、不要な茎葉を除去し、鉢花や苗物などは間隔を十分にとるなど受光環境を整え、適期に防除を行いましょ。
- 3 曇雨天で経過後、強い日照になった時には、葉焼け等を生じやすいので遮光により防止しましょ。

【水 稲】

(現在の生育状況)

中通りや浜通りで草丈が平年並～やや短く、茎数が平年並～やや少ない状況です。また、6月上旬には県内各地で補植用置き苗に葉いもちが確認されています。

(今後の技術対策)

- 1 置き苗は、いもち病の伝染源になるので早急に除去しましょ。
- 2 移植時に箱施用剤を施用していない場合や葉いもち予防の粒剤を散布していない場合には、葉いもち病斑を見つけしだい直ちに防除しましょ。

【麦 類】

(現在の生育状況)

出穂期は、各地で平年より3日～10日の遅れとなり、成熟期も7日～10日程度遅れています。

(今後の技術対策)

- 1 適期収穫に努めるほか、倒伏や病害の発生か所を刈り分けるなど、品質の低下に注意しましょ。
- 2 収穫後は、速やかに乾燥機に張り込み通風するとともに、初期の乾燥温度を低めに設定しましょ。

病害虫の発生状況や防除情報については、
病害虫発生予察情報(ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>)等を活用し、適切に対応してください。